

ハーバード大学 T.H.Chan 公衆衛生大学院との交流

(1) 武見プログラム視察

令和元年 11 月 6 日、松原謙二副会長と道永麻里常任理事が、ボストンにおいて、ハーバード大学 T. H. Chan 公衆衛生大学院武見国際保健プログラムを視察した。日本人 3 名を含む 9 名のフェローによる研究計画が報告され、質疑応答が行われた。引き続き、ハーバード大学医学部で研究活動を行っている日本人研究員 17 名との懇談が行われた。松原副会長から、世界医師会（WMA）における安楽死に関する文書の採択において、加盟各国医師会の間で宗教観の相違から議論が交錯したことを説明した。また、道永常任理事と共に、研究員からの日本医師会の活動、診療報酬、医療提供体制等の質問に回答した。その後、マイケル・ライシュ教授、ジェシー・バンプ事務局長、エミリー・コーツプログラム・コーディネーターと武見プログラムの今後の展開について議論を行った。同プログラムでは、SNS を駆使したフェロー募集の結果、世界各国から 400 名を超える応募があったこと、プログラム紹介冊子（データ版）の作成、ボストンにおける住居費高騰に伴うフェローの負担増の現状についての話があった。フェローとの夕食会には、大森摂生在ボストン日本国総領事も参加し、懇談を行った。

また、武見プログラム視察のための渡米に合わせ、横倉義武会長、道永常任理事は、11 月 3 日、スタンフォード大学ロニット・カッツ教授の招待を受け、サンフランシスコにある同大学を訪問し視察を行った。カッツ教授は、アメリカ医師会に所属、カリフォルニア州警備隊の軍医大佐として、同警備隊医療対応部隊の医療計画、政策を分析、草案、更新、および実施する任にある。同教授は、2018 年 4 月 4 日、本会で開催された 2020 年東京オリンピック・パラリンピックを想定した日本医師会 CBRNE（災害テロ）研修会において、米国のテロ対策への緊急対応例として、テロ災害の脅威と潜在的手段の特性、発生の認識と一次対応者と医療提供者の役割の重要性等について講演した。今回の訪問に際し、同教授から、来年に向け大規模テロ対策を想定した準備が肝要であるとの示唆を受けた。

11 月 5 日には、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）医学部（内科）・公衆衛生大学院（医療政策学）の津川友介助教授の招待により、校内を視察した。その後、同助教授および一般内科部長であるキャロル・マンジオーネ教授他と懇談した。横倉会長は、WMA トビリシ総会で採択された「安楽死と医師の支援を受けてなされる自殺」について議論の経緯と内容について紹介し、マンジオーネ教授から、カリフォルニア州における同案件の実情について言及があった。

(2) 武見フェロー帰国報告会

令和元年 7 月 16 日、2018 - 2019 年度の武見フェローである杉浦至郎氏（あいち小児保健医療総合センターアレルギー科医長）、高橋宗康氏（岩手県立高田病院第二内科長）、石川雅俊氏（厚生労働省医政局総務課課長補佐）による帰国報告会が行われた。日医役員、日本製薬工業協会、米国研究製

薬工業協会、武見フェロー OB、日医総研研究員ら約 60 名が出席した。

(3) 日本人武見フェローの選考

令和 2 年 2 月 21 日、武見フェロー選考委員会において 2 名の候補者を選考し、面接を経て武見プログラムに推薦した。期間は 2020（令和 2）年 8 月から 2021（令和 3）年 6 月までの 11 カ月間である。